

平成30年度第2回岡山県産後母子への支援のあり方検討会議議事概要

- ◎ 開催日時 平成31年1月22日（火）17:00～17:45
- ◎ 開催場所 岡山県医師会館 402会議室
- ◎ 出席委員 14名
2名欠席、1名代理出席
- ◎ 傍聴者 1名

1 開会

2 あいさつ（山野井健康推進課長）

3 議事【司会：座長】

（1）事務局からの報告

ア 産婦健康診査について

【委員の意見等】

なし

イ 産科、精神科の連携強化について

【委員の意見等】

○座長

お願いする産婦人科の立場としては、当初、なかなか精神科に協力をいただけないのではないかと心配していた。とりあえず精神科医療センターで引き受けてくださるという力強いお言葉を（以前この会議で●●委員から）いただいた上でこの調査結果を見ると、非常に回答率も高く、1週間以内に対応していただけるという回答も多いので安心している。●●委員の力が発揮されたのであろうと思う。

このリスト（妊産婦の受け入れ可能な精神科・心療内科一覧）については、今後事務局でまとめていただいて、医療機関へ配布ということになるかと思う。

このことについて、何かご質問はあるか。

○委員代理

今日初めてこの資料をじっくり見せていただいたが、入院とかの緊急性がある場合には、精神科医療センターへということだと思うが、例えば、そうでは

なくても直接産科の医療機関が紹介するときに、ここは入院ができるのか、ベッドがあるのかということが、このリストからはわからない。

産婦人科の方から、どこだったら、短期間の入院をとってくれるのかというのがわからない。

もし、入院をする場合というのは当然、産婦の場合ではなく妊婦の場合は、産科でも見ていく必要があるので、その期間で同時に産科のケアができるかどうかというのが少しあれば、我々がどこへご紹介しようかと。

大体はわかるが、実際にすぐベッドがあるかどうかとか、精神科の先生はこう言っているが、産婦人科の先生に話が通じているかどうか。

○委員

入院ができるかどうか、しかも、それがすぐにできるか、あるいは1週間以内ならできるかという項目を作れば問題ない。ただし、入院だから1週間では間に合わない。

即入院も対応できるかどうかという点について、電話で聞いたらよいのではないか。入院施設がないところもたくさんあるので、そのようなところには聞かなくてよい。病院だけでよい。

おそらく、受けられるところは、そうなのではないか。

○委員代理

例えば、うちの施設の場合だが、私（産科）の知らないうちに（この調査に）心療内科の先生が回答を返している。ぱっと来た時に、我々が知らなかったということが、他の病院でもあるかもしれない。

○委員

（医療機関名）は、産婦健康診査を4月からできないのか。

○委員代理

4月からしようと思っても助産師がいない。

直接、妊産婦さんのケアに直接対応する助産師がいればよいが、そういった問題など、病院によって対応できるかできないかがあると思う。

○委員

妊産婦といっても、妊婦であれば総合病院でないとだめ。産婦であれば、精神科医療センターは大学病院がすぐそばなので、必要ならすぐ来てもらえばよい。

精神科が知っていて産科が知らないなんていうことがありうるのか。

○委員代理

私がこの資料を知ったのは今日が初めて。今日ここへ来る前に何も情報提供がなかった。精神科、心療内科の話だろうということで、事務がそちらへ回したのだろうと思う。うちもそうだったので、他の総合病院もそういうことがあるのではないかと思う。

○委員

それは病院内の連絡体制の問題ではないか。

もちろん、総合病院においては、しばしば起こっていることではないかと思うので、そういう連絡体制をしっかりとしてほしいということ、言い方を考えて、(リストを) 交付した方がよいかも知れない。

○座長

院内ももっと話し合いをしておかないといけない。それは必要だと思う。

○委員

実際にやるときは産科から精神科・心療内科へ紹介なので、産科は産科で紹介状を書くというのが通常行っていることなので、委員代理が心配していることはあまり起きないのではないか。

助産所から精神科へいきなりというときには、産科に紹介状をちゃんと書いてもらえば問題は起きないのではないか。

○座長

では、事務局で項目を追加していただいて、個別にそういう事例がある病院をあらかじめチェックしていただくということで、個別に当たっていただくということで解決すると思うがよいか。

○委員

精神科への調査結果で、妊産婦の受け入れに協力できる医療機関数が資料では52、リストでは51となっているが。

○事務局

以前、受け入れ可能というお話をお聞きしていたので調査は依頼していないが、リストには精神科医療センターを入れているので、1増えている。

3 その他

来年度の予定について事務局から説明

- ・来年度の本会議について

- ・産科・精神科との連携について
- ・産後うつ病についての正しい知識の普及啓発について

【委員の意見等】

○座長

産婦健康診査が10月から始まった。しっかり検証する必要があるが、岡山市、倉敷市は来年度からということなので、2～3ヶ月経ってからこの会議をした方が良いと思うがいかがか。

○事務局

産婦健康診査について岡山市と倉敷市が来年度予算要求中ということで、両市については精神科への紹介の件数も多いと思うので、座長の言われたような対応で今後ご相談させていただきたい。

次第にはないが、小児科とも連携して気になるお母さんの情報をいただいたり、支援につなげたりするということで、県小児科医会からご了解をいただいて、連携システムについてこちらで調整をさせていただいているところである。

小児科版の気になる母子支援連絡票や全体のシステムをどうするかということについて、今、市町村の意見を募集して取りまとめをしている。その意見を反映させて、もう一度連絡票の案や全体の流れなどを、要綱やガイドのようなものをこちらで作成し、県小児科医会と協議をさせていただき、まず何か月か試行運用をさせていただいてから、最終のシステムとして動かさせていただきたいと考えている。

○座長

産科と精神科の連携について、産婦人科医会との関係もあろうかと思うが、委員はどう思われるか。

○委員

気になる母子支援連絡票の精神科の部分について改訂を行った。精神科にすぐ送るべきなのか、保健師さんがメインでやるべきなのか、産科がメインでやるべきなのかアセスメントを産科のスタッフにさせていただいて、メンタルヘルスの問題を中心に考えていただくという形に変えた。今のところ大きなトラブルは起きていない。

今後その辺りの件数が増えていくのかどうかについては、まだ変えて2～3ヶ月なので、来年度になれば昨年度との比較ができると思う。

○座長

本日、県精神科医会、県医師会精神科部会シンポジウム「産後母子支援のあ

り方を求めて」についてのチラシを県精神科医会から配布されているが、これについての説明をお願いします。

○委員

県の方からもこういうことをやってほしいという依頼があって考えたことである。

産科、小児科、精神科がきちっと連携してやっていけるような体制を作りましょうと。そのためには、ほとんどこういうことに経験のない医師や関係者もいるので、的外れでもいいので、いろんな意見が出たらいいなと思う。

その中で、取り上げた方がいいような項目があれば、きちっと事務局で拾い上げていただきたい。

○座長

このチラシはどこへ配布しているのか。

○委員

精神科医には配布している。

○委員

産科でも見たと思う。

○事務局

市町村、保健所、精神保健福祉士協会には送らせていただいている。

○座長

今日はありがとうございました。

4 閉会